

実践事例「新聞を活用した言語表現の取組」 (町田市立真光寺中学校)

本校では、新聞を活用した言語表現活動として、新聞記事を読み・選び・発表する活動、新聞作り活動などを行っています。

新聞記事を読み・選び・発表する活動

- 生徒は毎日届く新聞の中から興味のある記事を選び、要約と記事に関する自分の意見を発表します。
- 発表者は、国語の授業の冒頭に2名ずつ順番に割り当てています。
- 長期休みの際には、新聞記事をスクラップし、要約と意見をまとめて提出する取組を行っています。

新聞作り活動

- 新聞の書き方について学び、縦書きの新聞を作成します。国語の時間では、漢字の部首を取り上げた「漢字新聞」、「故事成語新聞」などを作成しました。



国語の時間に漢字の部首をテーマにした
漢字新聞などを作成

- 書くことが苦手な生徒については、写真や手書きのイラストを入れることで負担を減らしたり、型に沿って書くことを勧めたりするなどの工夫をしています。

取組上の工夫

- 本校は全クラスに新聞がある環境のため、各クラスに設置された新聞受けに、毎朝生徒が自分のクラスの新聞を持っていくように指導しています。



各クラスに設置している新聞受け
(生徒製作)

- 事件、事故に関する記事に目が行きがちですが、幅広い視点で物事を見るようにしようと声をかけています。また、例えば東京オリンピックの開会式に関する記事でも、新聞によって取り上げ方が全然違います。複数紙を読み比べることにより、同じ話題でも様々な見方があることを知ってもらい、多角的な考察ができるよう意識付けをしています。

その他の工夫

生徒が気軽に新聞を手にとりやすくなるよう図書室前の廊下に各種新聞を設置しているほか、新聞の一面を廊下に掲示して世の中の動きを知るきっかけを作ることを心がけています。



新聞コーナー（左）

教師がコメント付け、
新聞の一面を掲示（右）



取組の成果

- 新聞記事を読み・選び・発表する活動では、最初は1面の事件や目立つ話題から選んでいた生徒が、活動を重ねる中で興味の幅が広がり、1面以外の各紙面から記事を選ぶようになりました。
- 3年生は面接対策において、時事の質問に対し根拠を明確にしながら自分の意見をスムーズに発言できるようになるなど、進路指導の観点からも効果がみられています。
- 新聞作り活動では、言語表現の力を養うことのほか、学校教育を含め、縦書きで日本語を書く場面は少なくなっていることから、日本語文化を経験する貴重な機会にもなっています。

今後の展望

今後は紙だけではなく、一人1台端末（タブレット）を活用した記事の音声読み上げや音声入力による新聞作りも考えられます。音声による入出力を取り入れることで、言語表現活動の幅が広がり、多様な生徒の状況に合わせた取組が可能になります。